安全データシート

整理番号【634－5】

制定日　2016/06/03
改訂日　2025/05/30

1.化学品及び会社情報

化学品

化学品の名称　液体クレンザー

供給者情報

会社　サラヤ株式会社

住所　大阪府大阪市東住吉区湯里2－2－8

担当部門　営業本部

電話番号　06-6797-2525

緊急時連絡番号　06-6705-1013

推奨用途及び使用上の制限:

推奨用途:台所用品・浴室用品・洗面所用品の洗浄用。業務用。

使用上の制限:推奨用途以外の用途に使用しない。

2.危険有害性の要約

化学品のGHS分類:

健康有害性:

皮膚感作性:区分1

環境有害性:

水生環境有害性 短期(急性):区分2

GHSのラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:警告

危険有害性情報:

アレルギー性皮ふ反応を起こすおそれ／水生生物に毒性

注意書き:

【安全対策】

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急処置】

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗たくをすること。

【廃棄】

内容物、容器を自治体のルールに従い廃棄すること。

3.組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別:混合物

成分:

研磨剤、脂肪酸アルカノールアミド、安定化剤、
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム、水

濃度:

脂肪酸アルカノールアミド　5%未満含有
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(CAS No. 25155-30-0)2．8%含有

4.応急処置

吸入した場合:

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

皮膚に付着した場合:

直ちに水で十分に洗い流す。液が付着した衣服や靴は直ちに脱ぐ。
皮ふ刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合:

(コンタクトレンズは外し)直ちに流水で15分以上洗い流す。
目の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受ける。

飲み込んだ場合:

直ちに多量の水を飲ませる。
無理に吐かせないで速やかに医師の診断を受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状:

情報なし

5.火災時の措置

適切な消火剤:

粉末消火剤、泡消火剤、水

使ってはならない消火剤:

情報なし

火災時の特定の危険有害性:

情報なし

特有の消火方法:

火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
消火作業は可能な限り風上から行う。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 :

消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:

作業時には、必ず保護具(手袋、眼鏡)を着用する。
多量の場合、人を安全に退避させる。
必要に応じた換気を確保する。

環境に対する注意事項:

原液の環境への放出は避けること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材:

少量の場合、吸着剤(おがくず、土、砂、ウエス等)で吸着させ取り除いた後、
残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。
多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

二次災害の防止策:

情報なし

7.取り扱い及び保管上の注意

取り扱い:

技術的対策:

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項:

吸い込んだり、眼・皮ふおよび衣類に触れないように適切な保護具を着用する。
局所排気装置の設置してある場所またはできるだけ換気の良い場所で取扱う。
容器を転倒、落下、衝撃を加える、引きずる等の粗暴な取扱いをして
液を漏洩、飛散させたりすることがないように取扱う。

接触回避:

酸との接触を避ける。(発泡し炭酸ガスを発生する。)

保管

安全な保管条件:

子どもや認知症の方の誤飲などを防ぐため、置き場所に注意する。
保管時は容器の口(キャップ)をしっかり閉め、容器を密閉して換気の良いところで保管する。
極端に高温または低温の場所、直射日光の当たる場所には保管しない。
倒れたり、こぼれたりすることのないような場所に保管する。

安全な容器包装材料:

情報なし

8.ばく露防止措置及び保護措置

許容濃度等:情報なし
設備対策:
取扱い場所の近くに、手洗い、洗眼、シャワー等を設ける。
取扱い場所には局所排気装置、または全体排気装置を設ける。
保護具:
呼吸用保護具:状況に応じ着用する。
手の保護具:ゴム保護手袋
眼および、または顔面の保護具:保護メガネ
皮ふおよび身体の保護具:長袖作業衣

9.物理的及び化学的性質

物理状態:液体
色:白色不透明
臭い:ミント調の香り
融点/凝固点:情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲:情報なし
可燃性:情報なし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界:情報なし
引火点:情報なし
自然発火点:情報なし
分解温度:情報なし
pH:8～10(25℃原液)
動粘性率:情報なし
溶解度:水に容易に分散する
n-オクタノール/水分配係数(log値):情報なし
蒸気圧:情報なし
密度及び/又は相対密度:約1．4～1．5(25℃)
相対ガス密度:情報なし
粒子特性:情報なし
粘度:2,000～4,000mPa・s(25℃)

10.安定性及び反応性

反応性:注目すべき反応性はない。
化学的安定性:通常の使用では安定である。

危険有害性反応可能性:通常の使用では安定である。
避けるべき条件:情報なし
混触危険物質:情報なし
危険有害な分解生成物:情報なし

11.有害性情報

急性毒性:分類できない
皮膚腐食性/刺激性:分類できない
眼に対する重篤な損傷/刺激性:区分に該当しない
呼吸器感作性又は皮膚感作性:
区分1(アレルギー性皮ふ反応を起こすおそれ)
皮膚感作性物質区分1Aを濃度限界(0.1%)以上含むため、区分1に該当。
生殖細胞変異原性:分類できない
発がん性:分類できない
生殖毒性:分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露):分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露):分類できない
誤えん有害性:分類できない

12.環境影響情報

生態毒性:
水生環境有害性 短期(急性):区分2(水生生物に毒性)
方式2
加算法:(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が
濃度限界(25%)以上のため、区分3に該当。
方式3
加算法:(毒性乗率×10×区分1)+区分2が濃度限界(25%)以上のため、区分2に該当。
方式1=分類できない、方式2=区分3、方式3=区分2より区分2に該当。
残留性・分解性:情報なし
生態蓄積性:情報なし
土壌中の移動性:情報なし
オゾン層への有害性:情報なし

化学物質管理促進法(PRTR法)
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩
(アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物に限る。)
(第一種指定化学物質 管理番号:30) 2.8%含有

ノニルフェノール系非イオン界面活性剤を含め、環境庁が内分泌撹乱物質
（いわゆる環境ホルモン）と位置付けした 指定物質は一切配合していない。

13.廃棄上の注意

化学品，汚染容器および包装の安全で，かつ，環境上望ましい廃棄，またはリサイクルに関する情報

「7．取り扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

残余廃棄物：

おがくず等に混ぜて焼却炉で少量ずつ焼却処分するか、都道府県知事の許可を受けた
専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

使用済容器：

内容物を除去した後、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

14.輸送上の注意

「7．取り扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

国際規制

国連分類：該当しない

国連番号：該当しない

海洋汚染物質：該当しない

国内規制：

陸上輸送：消防法、毒劇および劇物取締法、高圧ガス保安法、道路法等に従う。

海上輸送：船舶安全法等に従う。

航空輸送：航空法等に従う。

輸送の特定の安全対策及び条件：

関係法令の定めに従う。

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認すること。

転倒、落下、破損が無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。

15.適用法令

労働安全衛生法（安衛法）：

名称等を表示すべき危険物及び有害物　法第57条、施行令第18条

名称等を通知すべき危険物及び有害物　法第57条の2、施行令第18条の2

・ドデシルベンゼンスルホン酸のアンモニウム塩及びナトリウム塩　2．8％（2026年
　4月1日以降）
名称等を通知すべき危険物及び有害物　法第57条の2、施行令第18条の2
・ジエタノールアミン　0．2 ％
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）:
　特定化学物質、監視化学物質を含有しない。
化学物質管理促進法（PRTR法）:該当する
船舶安全法:該当しない
航空法:該当しない
毒物及び劇物取締法:該当しない
消防法:該当しない

16.その他の情報

参考文献
　原料メーカーSDS
　独立行政法人製品評価技術基盤機構　ウェブサイト
　厚生労働省 職場の安全サイト　ウェブサイト
　GHS混合物分類判定システム（経済産業省）

・本SDSはJIS Z 7253：2019に準拠しています。
・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、
　情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
・注意事項は通常の取り扱いを対象としたものですが、特別な取り扱いをする
　場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意
　が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださる
　ようお願い申し上げます。
